

もりのかぜTM Vol.17



森を感じる情報誌——Green Page Akita

緑の募金で
ふせごう地球温暖化



公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

〈CONTENTS〉特集●真昼岳 森の恵みを生かす／2 緑育REPORT／4 地域と森林レポート／6
GREEN PAGE AKITA／8 Photographこの一枚／10 あきた・緑化の足跡／11 インフォメーション／12

下山（峰越登山口）方向に和賀山塊を望む

東北地方の背骨・奥羽山脈の稜線を歩く爽快な登山。山腹の新緑・紅葉、仙北平野の田園風景、鳥海山などの眺望が素晴らしく、奥羽山脈の雄大さを感じながら歩く気分は雲の上にいるかのようです。

特集

真昼岳

ま
ひる
だけ



音動岳の基点。ここから真昼岳頂上まで1.1km。



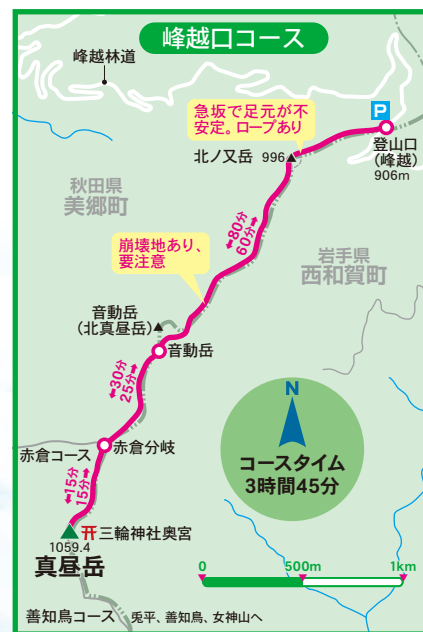
登山道から望むまばゆいほどに輝くブナ新緑。



手前に見えるのが峰越登山口・駐車場。稜線伝いに登山道が走る。写真右上は鳥海山。



朝日に映える真昼岳山頂の三輪神社奥宮、雲海に浮かぶ鳥海山。神々しい風景に出会える真昼岳山頂。



●国道46号仙北市神代地区から地方道50号に入り、美郷町千畑地区の一丈木公園へ。その先、牧草地の十字路から大又沢沿いに伸びる峰越林道を進むと約10kmで駐車場のある峰越登山口に着く。

心洗われる風景



真昼岳山頂からの仙北平野の眺望。美しい田園風景が広がる。中央・遠方に男鹿真山を望む。

奥羽山脈の稜線を歩く爽快な登山

岩手・秋田の県境のほぼ中央部にまたがる真昼山地。真昼岳はその主峰で秋田県美郷町と岩手県西和賀町の境界に位置し、標高は1059.4m。

古くから山岳信仰の対象として地域住民に親しまれ、山頂の三輪神社奥宮は大同二年（807年）に坂上田村麻呂が開基したと伝わります。

登山口は秋田側には赤倉口、善知鳥口があり、ほかに歴史の浅い峰越登山口があり、この登山口からのコースが最短で標高差が少なく初級者の方にはおすすめです。

峰越登山口は脊梁山脈上にあり、森林限界域の稜線を歩くため遮るものがなく、雲の上を歩くかのような爽快感を味わえます。

眺望は抜群で奥羽山脈の雄大さを実感できます。また、山腹のブナ林等の広葉樹林は新緑・紅葉とも素晴らしく、高山植物とともに堪能しながら登ることができます。

山頂からは北に和賀山塊、西に秀麗な鳥海山、眼下に仙北平野の大パノラマを望むことができます。



遮るもののない快適な道をシラネアオイを見ながら真昼岳（写真中央）目指して登る。振り返れば後方奥には和賀山塊が見える。



高い技術が産み出す 表情豊かな組木細工

秋田木楽舎
奈良吉秋氏

秋田県の北東北に位置する鹿角市は、十和田八幡平国立公園のエリアにある自然豊かな地域です。道の駅かつの「あんたらあ」は十和田湖と八幡平を結ぶ観光拠点施設で、その一角に、「秋田木楽舎」は組木細工の工房兼店舗を構えています。

組木細工は立体パズルのように組み立てたり解体することができる伝統的な玩具です。

木楽舎の店内には動物・乗物・干支・お雛様など様々なモチーフの組木細工が展示・販売されています。これらの作品はすべて奈良吉秋さんの手作りです。奈良さんは製作から販売までを担っています。

その魅力は無垢材（桂・シナ材）を使用しているため、手にやさしく木の温もりを感じることができ、同じモチーフでも木目の違いで違う表情が生まれること、はじめは白っぽい木目の色も年月を経て茶色味を帯びていく趣のある色に変化していくことです。



木楽舎店内では様々なモチーフの組木細工の製品が展示・販売されている。隣接して工房が設置されている。



お内裏様とお雛様

五月人形の兜



雛壇7段飾り

組木細工との出会い

奈良さんが組木細工を生業としたきっかけは、叔父さんからの北海道土産。それは「組木細工」でした。長年事務職を務めていた奈良さんですが、その頃、もっと生きがいを感じて打ち込めるものはないかと模索していました。組木細工を手にした瞬間、「これだ！」と衝撃に近いものを感じたそうです。

土産品の製作者は北海道木楽舎の清水光夫氏。奈良さんは北海道の清水氏の工房を訪ねて行き、組木の製作を見学させてもらいました。秋田に帰ってきてからは機械を操作する日々が続きました。一枚の板に下絵を貼り、特殊な糸鋸で切っていく作業ですが、なかなか習得できず、自分が納得できる作品が出来るまで3年の年月を要しました。

こうして平成4年4月の開業となり、清水氏より社名の「木楽舎」とデザインの使用权を一部譲り受け、秋田木楽舎が誕生しました。

木に魅せられて

奈良さんは「無垢の木は手触りがやさしく、特に桂の材は年月とともに色合いが良くなります。お客様のお手元に置いて木の風合いを感じ、心とむひときを味わっていただけたら…」との思いで作品作りをしています。御自身も「木の魅力を味わう日々」とおっしゃいます。

木に魅せられ木を生かし、木の魅力を組木細工という作品で発信中の奈良さんです。

組木細工の木楽舎

動物・乗物・おひな様・五月人形・干支



全神経を糸鋸操作に集中させて…



作品が掲載された広報誌



広報誌「あきたびじょん」の表紙を飾った龍



疾走感のあるバイク

広報誌「総務省」裏表紙に掲載された鶏



秋田木楽舎 代表／奈良吉秋さん

昭和32年生まれ。平成元年、12年間の病院勤務を辞職し北海道木楽舎の清水光夫氏に師事する。平成4年4月、秋田木楽舎を開業。

道の駅かつの「あんたらあ」内・秋田木楽舎 〒018-5201 秋田県鹿角市花輪字新田町11-4 TEL 0186-23-7012 FAX 0186-35-4851 E-mail:kiraku@ink.or.jp

緑とともに育つ・育てる

《緑育REPORT》

大仙市立 太田中学校

美しい自然に恵まれた秋田県では、古くから学校林等を中心にした森林環境教育が盛んです。緑にふれることによって、子どもたちの環境への理解が深まるとともに、豊かな人間性を育む……そんなすばらしい教育活動を実践している学校を紹介するシリーズです。

ある植え付け面積の水やりは2時間ほどかかります。これらの作業は誰ひとりいやがることはありません。花壇のデザインは全校生徒参加の「花壇デザインコンクール」を行い、選定しています。採用されたデザインの色彩に合う花を先生がアドバイスして花苗を決め、花壇作りが始まります。



定植・朝の水やりも生徒の手で行っています。

地域挙げての花づくり活動

大仙市太田町は秋田県の中央部に位置し、東部は真木真昼県立自然公園が一角を占め、西側は仙北平野の田園が広がる自然豊かな地域です。この地域では、花いっぱい運動を地域住民と子どもたち、そして行政が一つになり60年余り続けています。花をテーマとした地域活性化、そして地域住民と子どもたちとの関係を深め、ふるさとを愛する心の醸成を目的としています。

このような環境にあつて太田中学校が花づくりの活動を開始したのは昭和43年のこと。地域の方々のご指導やご支援もあつて花壇関係のコンクールでは秋田県内はもとより、全国での受賞も数多く、全国にその名が知られています。

花を通じた地域との交流

太田地域では毎年6月になると地域花壇づくりが始まります。太田中の生徒も地域の一員として地域花壇の定植作業に参加しています。7月末から9月にかけて地域花壇は見頃を迎え、地域全体が色とりどりの花で彩られます。

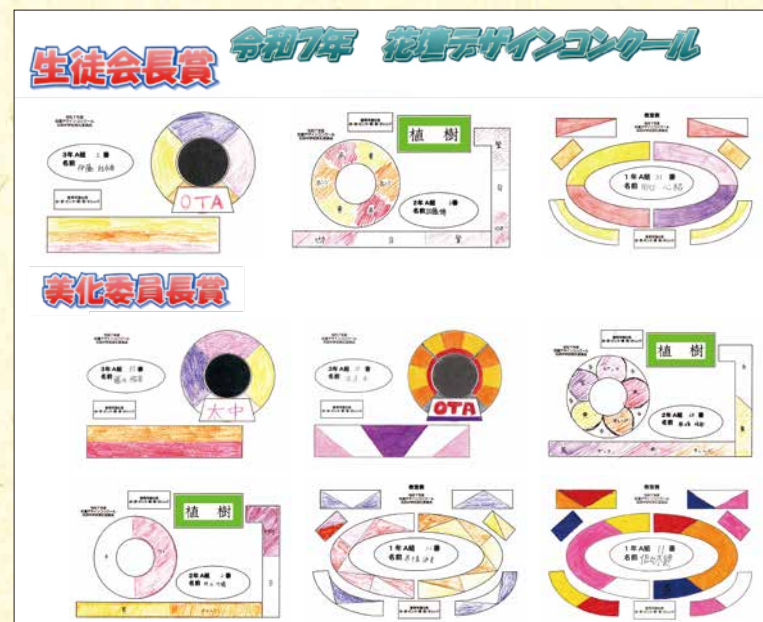
また、地域行事である「おおた花壇フェア」には太田中のプランターを持ち寄ったり、フェアの演奏会に吹奏楽部が参加したりするなど、花を通して地域と学校の交流が生まれています。



休日の早朝、地域花壇作業に参加する生徒たち。

花壇のデザインは生徒が考案

花苗の定植や除草、水やりなどの作業は全校生徒で行います。約730㎡



花壇デザインコンクールでは生徒会長賞、美化委員長賞が設けられる。

大槌学園との交流活動

ほかに花を核とした活動には14年間にも及ぶ岩手県大槌町・大槌学園（旧大槌中学校が小中一貫校になった）との交流活動があります。これは平成23年の東日本大震災により「町が破壊され、色がなくなってしまった大槌に花を」のコンセプトで太田中学校が大槌中や大槌地域の仮設住宅にベゴニアのプランター300個を届けたことに始まります。以来、太田中だけでなく地域の太田ライオンズクラブ、太田支

所など地域全体の支援活動に広がっていきました。太田中の生徒が仮設住宅を訪問し、地域から託された手作り品や新米などを届けたり、大槌中の学校祭に参加するなどの交流と支援活動を続けてきました。

コロナ禍以降は訪問しての交流活動はできなくなりましたが、現在でも大槌学園へのベゴニア・プランターの贈り物は継続され、学園の校門から校舎入り口までをベゴニアが彩り、ベゴニアロードと呼ばれて児童・生徒に親しまれています。

心豊かに育まれる子どもたち

太田中の花づくり活動の取り組みは現在まで57年の歴史を刻み、伝統として根付いています。花づくりを通して働く喜びや感謝の心、ふるさとを愛する心が育まれ、まさに地域の大輪の花として輝きを放っているのです。

太田全域が花で彩られる秋、太田中の花壇をはじめ、地域内の花壇を巡ってみませんか。



令和6年9月、大槌学園からお礼のメッセージを貼り付けたポスターが届いた。他者から感謝されることは生徒たちの喜びになり、それがまた感謝の心を育てている。



秋田県大仙市立太田中学校

〒019-1613 秋田県大仙市太田町太田字新田尻76
TEL 0187-88-2211 FAX 0187-88-2212

人づくり、地域づくりに邁進する日々 佐々木 仁さん

横手市
十文字町



今回ご紹介させていただくのは（公財）日本花の会・花のまちづくりアドバイザーや秋田県花いっぱい運動の会・副会長等を務める佐々木仁さんです。佐々木さんは公的機関や地域、諸団体、個人のために幅広く緑化活動に取り組みられています。

きっかけは学校緑化

佐々木さんは東京農業大学造園科を卒業後、昭和43年から平成17年まで37年間教職に就いていました。緑化活動に携わるようになったきっかけは昭和48年に増田中学校に赴任したことに始まります。この学校は統合校で校地確保の条件に「木を植えないこと」というのがありました。木に集まる鳥や落ち葉が周囲の田んぼにとつて害になるということでした。

しかし、緑のない環境は殺伐としたものでした。これでは生徒たちの心がすさんでしまうと当時の校長が「緑化計画を提示して町と交渉しよう」と発案し、大学で造園を学んだ佐々木さん

が緑化計画を作成することになったのです。

「環境は人をつくる」をモットーに

町や農家の理解を得、営林署からのブナ、モミジ、ナナカマドなど約160本もの提供など支援もあつて、緑化計画は前進していきました。

佐々木さんは「環境は人をつくる」をモットーに生徒たちと花壇づくり、並木づくりに取り組み、生徒たちは花と緑を育てながら、感性豊かに伸びやかに育まれていきました。

佐々木さんが増田中学校・在職の13年間に秋田県花壇コンクールで最優秀賞を5回、秋田県学校緑化コンクールで特別表彰を3回、優秀賞が6回と、幾度も栄誉ある賞に輝きました。なかでも昭和56年度・全日本学校環境緑化コンクールの準特選（全国準優勝）は大きな受賞でした。

このように増田中学校の緑化活動は学校の伝統として確実に根付いていったのです。

魅力度アップのまちづくり

佐々木さんは教職を退職した後、学校緑化活動の経験とスキルを地元・十文字の魅力あるまちづくりのために役立てたいと考えました。ボランティア団体「十文字環境美化を考える会」の会員として花壇づくりに取り組みました。それは道の駅の駐車場を囲む花壇、旧国道13号線沿いのフラワロード、そしてJR十文字駅の花壇の三箇



十文字道の駅周辺の花壇への植栽には、毎年十文字小学校高学年の児童が参加している。

した木が豊かに森を彩り、人々の癒しの森になることを願い、森の整備は続いています。

「環境は人をつくる」をモットーに佐々木さんは今日も様々な場面で潤いのある環境づくりに邁進する日々です。

森づくりをプロデュース

湯沢市稲庭町の阿部隆さん（阿部耳鼻咽喉科医院院長）は下川原地内の生家の裏山を活用した癒しの森づくりに取り組んでいます。令和元年に70歳の節目を迎え、心の中で温めてきた想いを実行に移したのです。

「令和共生の里プロジェクト」（後に「秋田稲庭・やさしい森のプロジェクト」と改称）と名付けられた森づくりは、生家の裏山を利用し、散策コースを整備した森林自然公園をつくり、さらにその麓にコミュニケーション障がい児等のための療育支援施設を設置するというものです。森を開放することで人々が行き交い下川原地域の活性化が図られることや、自然豊かな環境で障がい児療育支援を、より深く楽しく



四季の彩りを醸し出すような植樹木を選定。楽しい散策コースをイメージした造園計画。



天然の沢を生かした見事な設計・沢ガニの流れ。



「優しいポロの森」創立記念植樹。



植樹祭には阿部さんの呼びかけで県内各地からたくさんの参加者があつた。（写真は令和元年10月）



向かって左から順に当時緑化推進委員会理事長の佐藤さん、阿部さん、元湯沢市長、佐々木さん、岡田さん。関係者のみなさんと夢をふくらませて…。

◆佐々木仁さんのお問い合わせ
電話番号（携帯）
090-9037-4397

所にポイントをおいた活動です。春先の土作りから花苗の植え付け、草取り、水やり、補植など花壇づくりは難儀な作業ですが会員のみなさんの努力が実って毎年見事な花壇がまを彩り、平成30年には全国花のまちづくりコンクールで最高賞の国土交通大臣賞を受賞しています。

ほかにも佐々木さんは鳥海山を借景とするオカメザクラの並木づくりに尽力されています。これは平成17年の合併により新横手市が誕生して各地域局



鳥海山を借景とした農道の両側2キロをオカメザクラが彩る。

白神の恵みの大地に遊ぶ

世界自然遺産白神山地の麓に広がる八峰町。JR五能線と国道101号が日本海沿いに並行し、里山の歴史文化や江戸時代の紀行家・菅江真澄が訪れた各所、海岸沿いには海底火山が造った奇岩など見所が数多くあります。今号では八峰町から青森県との県境までを五能線の駅に沿ってご紹介します。五感をフルに使って大地の息吹を感じてみてください！

世界自然遺産
白神山地

東八森駅周辺

溶岩体が信仰の場を造った 白瀑神社



毎年8月1日に神輿を担いで滝壺に入る「神輿の滝浴び」で知られる白瀑神社。仁寿3年(853年)円仁による創建と伝わる歴史の深い神社の地形は大地の変動によって形成された。白瀑川の流れが長い時間をかけて段丘を削り窪地を作った。その後溶岩が固まった岩石(素波里安山岩)により削られるのが止まり、白瀑(高さ約17m)を形成した。

■東八森駅より徒歩で10分
TEL 0185-77-3056 (白瀑神社)

名僧を輩出した由緒あるお寺 松源院



起源は白瀑神社と同じくする一院であったとされ、仁寿3年(853年)に円仁が創建、地震や衰退などを経て天文13年(1544年)補陀寺八世が曹洞宗として開山した。名僧を輩出し、寄進された宝物には山岡鉄舟の書や狩野派の絵などがある。

■東八森駅より徒歩で10分
TEL 0185-77-3137 (松源院)

東八森駅～八森駅周辺



絶景と大地の変動跡を眺望 鹿の浦展望所

海岸美と夕日を眺望できる。北側では白神山地に形成された海成段丘が観察できる。展望台の真下の泊海岸に魚岩と呼ばれる巨岩がある。■八森駅より車で約5分 TEL 0185-76-4100 (八峰町観光協会)



大地変動の息吹に圧倒される 椿海岸の柱状節理群

椿海岸にあるこの溶岩流は素波里安山岩で、長さ約94m、幅約16mの半島状を呈している。六角形や湾曲した柱の集まりが見られ、秋田県天然記念物に指定されている。■八森駅より車で約5分 TEL 0185-76-4100 (八峰町観光協会)

あきた白神駅周辺



希少な木造の五重塔 茂浦神社と五重塔

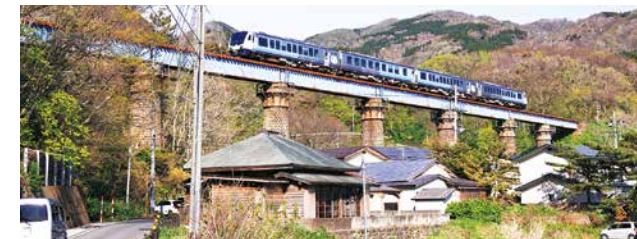
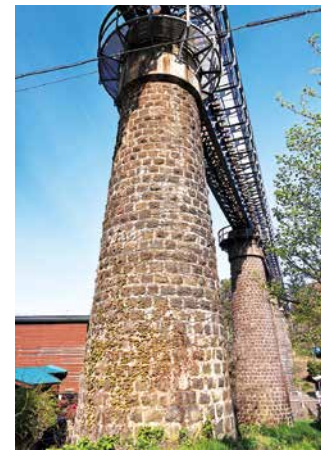
八森町誌によると昔は観音堂であったらしいが豊作豊漁の続いた明治26年、祭神として豊受姫大神(農業の神様)を勧請し、茂浦神社としたという。お堂の見事な彫刻や県内でも希少な五重塔は必見。■八森駅より徒歩で約6分



日本海を眺望、家族でリフレッシュ！ 御所の台ふれあいパーク

「あきた白神駅」前に広がる公園で、約800本の桜の名所。遊歩道が整備され様々なコースが設定されている。バッテリーカー、ピクニック、オートキャンプ場があり家族で楽しめる。■あきた白神駅前 TEL 0185-77-2730

岩館駅周辺



レトロな円錐形石積み橋梁 第二小入川橋梁

鉄道写真愛好家に人気の高いこのレトロな円錐形橋梁は、大正15年岩館駅の開業とともに竣工。橋脚は8基からなり、コンクリートの芯の周りを安山岩の間知石で固めた工法。国道101号の小入川橋から小入川橋梁を臨む撮影ポイント付近に広い駐車場がある。

■岩館駅より徒歩？分



伝説が伝わる巨岩 立岩

小入川橋梁にほど近い海岸に立つ巨岩。菅江真澄の記録にも描かれている。付近にはオカマイ岩という奇岩がある。



海が広大なプールになった 岩館海岸海浜プール

岩浜を防波堤で区切り砂浜を造成したもので、安心安全に海水浴を楽しめる。

■岩館駅より徒歩15分

TEL 0185-76-4100 (八峰町観光協会)

県境付近

ドライブ休憩の立寄りスポット 道の駅「はちもり」



白神山地を源とする名水「お殿水」を使用したメニューが人気の軽食コーナーや「お殿水」で喉を潤すことができる。展望台では日本海の眺望を楽しめる。

■青森との県境に近い国道101号沿い
TEL 0185-78-2300



見どころ
MAP



あきた
緑化の足跡

昭和63年4月26日

第39回秋田県植樹祭開催地——チゴキ崎《八峰町》



当時の植樹祭の様子。八森中学校では植樹祭記念に「緑の少年団」を結成した。

八森町（当時）チゴキ崎において第39回秋田県植樹祭が開催されました。参加者は当時の佐々木喜久治知事、菊地純一郎八森町長、八森中学校生徒ら約1000名です。

メインテーマは「緑が育つ 心が育つ 明日が輝く」。式典は八森中学校体育館で行われ、キジ20羽と風船が放たれました。

植栽樹種はクロマツ、オオシマザクラ、ケヤキ、エゾイタヤ、カシワ、ハマナス、ヤブツバキなど700本です。

チゴキ崎は八峰白神ジオパークにあるジオサイトの一つで、海成段丘※の上に建つ灯台は夕日の絶景スポットです。灯台は三方を海に囲まれており、眺めは抜群です。



灯台周辺や岩場には遊歩道が設置されているので気軽に散策を楽しめる。



海を背に立つ記念石碑。石碑周辺を植樹されたオオシマザクラが彩る。

岬の先端には見晴台があります。

また、灯台下の波食台では荒波が凝灰岩の岩肌を削り「須弥山岩」や「サンドイッチ岩」など様々な岩の芸術を目にすることができます。

サンドイッチ岩は岩脈といわれているもので、地下にできたマグマが地層の割れ目に沿って地表まであがってきたものです。チゴキ崎には大小様々な岩脈がみられます。

当時の植樹に思いを馳せながら、灯台からの眺めや大地のパワーを感じる岩場の観察など楽しんでみてはいかがでしょうか。

※海成段丘とは、かつて海水面付近で形成された平坦面が大地の隆起などにより標高数十メートルの高さの階段上の平地として残された地形をいいます。



チゴキ崎灯台へは五能線岩館駅から車で約5分徒歩で約30分。国道101号から見えるのでわかりやすく、灯台の脇まで車で行くことができる。

Photograph この一枚

横手市戸波地域の戸波神社へ続く小道の途中、鹿島様の付近に「ゴツゴツとこぶ立つた桜の太木があります。」「吉野の種まき桜」です。
平成7年11月、旧増田町の町制施行百周年記念に町の名木に指定されました。当時の標柱には推定樹齢185年とあります。
戸波地域の鶴松という人物の「御伊勢詣道中記」／文化7年（1810）

吉野の種まき桜【横手市】



に、旅の途中吉野の山で桜の実を食べ、その種を弁当箱に入れて持ち帰ったものが実生したとあります。
この桜の開花期が農家の苗代作りの時期の目安となったことから「種まき桜」と呼ばれるようになりました。
戸波地域は古くから「隠れの里」と呼ばれ、牧歌的な風景に威容を誇る樹姿は印象的です。



JAS製材品は、品質・性能を明らかにして出荷された製材品です。この製品は、「日本農林規格等に関する法律」(JAS法)に基づき認証されたJAS工場で品質管理及び格付のための検査・試験を行い消費者の皆様提供されており、安心してお使いいただけます。

だから、安心です!!

品質・性能が明確!!

JAS製材品は

JASは 安心の証明マーク

木造建築物には、
JAS製材品を使いましょう。

お問い合わせは
秋田県木材産業協同組合連合会

〒010-0003 秋田県秋田市東通二丁目7-35
TEL 018-837-8091 / FAX 018-837-8093 / <http://a-mokuren.jp>

県緑化推進委員会の主な事業

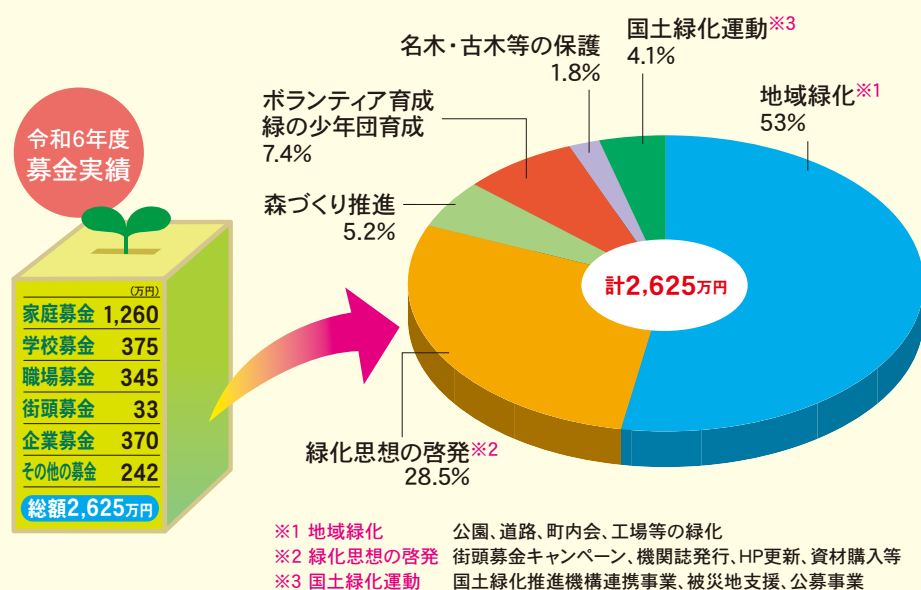
【緑の募金】運動の推進 緑の募金運動を広く展開し、寄せられた善意を主な原資として次のような事業を推進しています。

- 地域緑化活動の推進
市町村等が行う緑化イベントへの支援
- 緑化思想の啓発
チラシ、看板、キャンペーン、機関誌発行、緑化関係表彰
- 県民参加の森づくり推進
森林祭等開催、市民グループ森づくり活動支援
- 森林ボランティア育成
ボランティア活動支援、リーダー養成

- 緑の少年団等育成
交流集会、学校緑化コンクール、学校緑化活動支援、子供木づかい体験
- 名木・古木等の保護
診断、調査の支援
- 国土緑化運動
国土緑化推進機構連携事業、緑と水の森林ファンド活用事業

※秋田県緑化推進委員会は、国土緑化推進機構・各都道府県緑化推進委員会と連携し、緑の募金による東日本大震災・熊本地震被災地のみどりの再生支援を行っています。

緑の募金は、このように活用されました！



令和7年度秋田県緑の交流集会

「令和7年度 秋田県緑の交流集会」が7月29日(火)に北秋田市の「北欧の杜公園」と8月1日(金)に秋田市岩見三内地区ほかの2箇所で行われました。緑の少年団の参加者数は50名。

このうち今回初めて開催した「北欧の杜公園」での交流集会では、午前中にブナ、ミズキ、カツラの植樹を行ったほか、樹木の観覧会も行いました。お昼には飯盒での炊飯体験を行い、自分たちが炊いたご飯でカレーライスを美味しくいただきました。午後からは木工体験で小物入れづくりに挑戦しました。慣れない釘打ちに苦戦しながらも、スギの木目の美しい小物入れを上手に作っていました。



植樹／植樹の仕方を教わって親子で植樹

北秋田市
北欧の杜公園



木工体験／小物入れ作りに挑戦



自然観察会
笹笛などの自然遊びや自然観察を楽しんだ



清流散策／伏伸の滝を眺めながら散策



清流に笹笛を浮かべて遊ぶ

秋田市
岩見山内地区

TOPICS2

興味のある方はぜひおいでください
第50回全国育樹祭開催決定記念講演会

演題 地球温暖化で変わる秋田
私たちにできることは

令和7年9月24日(水)の13時30分からプラザクリプトンを会場に、気象予報士の田中美都さんを講師に迎え、講演会を開催します。何かとニュースに取り上げられる地球温暖化についての講演ですので、興味のある方は参加料無料となっていますのでお気軽にお申し込みください。

※お申し込み・お問い合わせ

秋田県緑化推進委員会
TEL 018-883-0815 FAX 018-883-0815
E-mail akiryoku@estate.ocn.ne.jp

※このチラシは秋田県緑化推進委員会HPよりご覧になれます。→

定員
60名

参加
無料



もりのかぜ

Vol.17

編集・発行

令和7年8月25日(月)発行

公益社団法人 秋田県緑化推進委員会
〒010-0941 秋田市川尻町字大川反170-169 森林環境会館内
TEL 018-883-0815 FAX 018-883-0816
[Eメール] akiryoku@estate.ocn.ne.jp
URL http://akiryoku.ec-net.jp/

制作
有限会社 パレア

〒010-0942 秋田市川尻大川町2-8
TEL 018-896-7225 FAX 018-883-0004

編集後記

▼令和7年7月末現在、令和7年度に入って幸いにも秋田県で豪雨災害のニュースは伝えられていない。ひとまずはホッとしているところである。しかしながら、連日の猛暑で雨がほとんど降らず、今度は農作物への影響が心配されている。この極端な気候現象もおそらくは地球温暖化の影響と考えられる。さて、この全国的に猛暑が続く中、7月30日、ロシアのカムチャツカ半島で巨大地震が発生し、津波警報が出された。テレビやラジオなどで海岸部の住民に高台へと避難するよう呼びかけていた。大きな人的被害は報告されていないようだが、この猛暑の中での高台への避難は熱中症の危険が増し、状況が悪ければ地震と熱中症の二重の災難に見舞われる可能性があることを知った。自然災害の恐怖を改めて知ることとなった。(N.T)

みんなが森林の応援団!!
緑の募金
への協力と森づくりへの参加をおねがいします。
■緑の募金は、地域の環境緑化活動や森づくり活動への支援に使われます。

いつでも どこでも 振込でも
募金強調期間
春季 4月10日～ 5月31日
秋季 9月 1日～ 10月31日

実施主体／(公社) 秋田県緑化推進委員会
市町村・市町村緑化推進委員会

緑の募金でふせごう地球温暖化

災害に強い安全安心な県土、安らぎの環境づくり 県土の保全で暮らしを守る



広域基幹林道「米代線」

当社は秋田県の森林土木事業を補完する機関として、森林の保全や林業生産の向上を図るための調査・研究、測量・設計等の業務を行っております。

第8回（令和4年度）
秋田県優良業務で知事より表彰



表彰業務 湯沢市柵内沢山地区、緊急機能強化・老朽化対策業務委託



CADによる設計



木製治山ダム工（オールウッド型）



ドローン活用



路網調査



一般社団法人 秋田県林業コンサルタント

〒010-0941 秋田市川尻町字大川反170-169
TEL. 018-865-1133 FAX. 018-865-1134
<http://www.akita-forest-con.or.jp/>